

多様な主体とつながり、つくり、暮らし楽しむ
～中核市が描く「ミライのその先」～

中核市サミット

2022 in 豊田

2022 10.27 木 ~ 28 金

メイン会場 名鉄トヨタホテル

サブ会場 ホテルトヨタキャッスル

主催 中核市市長会・豊田市

後援 総務省・愛知県・全国市長会・
全国市議会議長会・
中核市議会議長会

開催スケジュール

- 13:00~13:30 — 開会式
- 13:35~14:35 — 基調講演「(仮)未来の未来を探る ~AI・組織・コミュニケーションの視点から~」
- 14:50~16:10 — パネルディスカッション
第1会場 「時代の変化にしなやかに適応する産業のミライ」
第2会場 「多様なつながりと描く地域共生社会のミライ」
- 16:25~17:00 — 全体会議・閉会式

【松平東照宮 / 漆絵天井画】

松平郷にある松平東照宮は、徳川家康と、松平氏の始祖・松平親氏を祀る神社。2015年に徳川家康公400年祭メモリアル事業として、安藤則義氏が2年の月日をかけ、漆絵の天井画を施しました。108枚の漆絵は松平で見られる季節の草花が描かれ、観る者を魅了する壮麗さです。また、境内には家康公も産湯として用いたと言われる「産湯の井戸」があり、不老長寿や安産の御利益があるとされています。また、拝殿そばの「松平郷館」では、貝足や軍配、軍扇、鞍や火鉢、家康像など、松平家・徳川家ゆかりの品が収められています。

中核市サミット 2022 in 豊田

多様な主体とつながり、つくり、暮らし楽しむ ～中核市が描く「ミライのその先」～

中核市は、平成8年に12市が移行して以来、地域の中核都市として、また市民にもっとも身近な基礎自治体として、地方分権の推進と地域の発展に大きな役割を果たしてきました。中核市制度発足から四半世紀を経て、全国の中核市は62市まで拡大し、その人口は約2,275万人となるなど、我が国における存在と責任はより一層高まっています。

コロナ禍を契機に、脱炭素やデジタル化といった変革の動き、イノベーションの進展による新たな手法や価値の創出が加速度的に進み、それらの変化に対応する中で、中核市が以前から描いてきた「ミライ」が急速に訪れつつあります。

地域の核となる中核市は、目まぐるしく変わる時代に適応し、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくために、「ミライ」のさらに「その先」を描きなおす、重要な時期を迎えています。

中核市サミット2022 in 豊田では、時代の変化にしなやかに適応する「産業のミライ」と多様なつながりと描く「地域共生社会のミライ」について、中核市の市長が一同に会して議論を深め、その方策を全国に発信することで、日本の明るい「ミライのその先」の実現につなげてまいります。

基調講演 約60分



演題

(仮) 未来の未来を探る

～AI・組織・コミュニケーションの視点から～



【profile】

1993年生まれ。博士(工学)。東京工業大学附属科学技術高校、慶應義塾大学理工学部をいずれも首席で卒業。学部時代に設立した「全脳アーキテクチャ若手の会」が2,500人規模に成長し、日本最大級の人工知能コミュニティに発展。IEEE Young Researcher Award(2015年・最年少記録)をはじめ受賞歴多数。テレビ、新聞、ラジオほかメディア掲載多数。孫正義氏より選ばれた異能を持つ若手として孫正義育英財団一期生に選抜。日本認知科学会にて認知科学若手の会を設立。2020年から現職。著書に「ドラえもんを本気で作る(PHP新書)」。夢はドラえもんをつくること。

<講師>

大澤 正彦氏

日本大学文理学部情報科学科助教/
次世代社会研究センター センター長

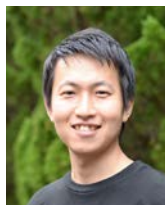
パネルディスカッション 約80分



<コーディネーター>

山田 基成氏

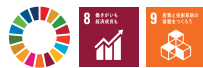
名古屋大学 名誉教授



<コーディネーター>

中村 翼氏

有志団体Dream On 代表



<コーディネーター>

永田 祐氏

同志社大学 社会学部 教授



<コーディネーター>

大澤 正彦氏

日本大学文理学部情報科学科助教/
次世代社会研究センター センター長



第1会場

<テーマ>

時代の変化にしなやかに適応する産業のミライ

パネリスト 中核市市長3名～4名

コロナ禍を契機としたデジタル化の急速な進行や、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、積極的な温暖化対策を通じて、産業構造や社会構造の変革がもたらされ、多くの産業もその在り方の転換が加速しています。

また、近年の人口構造の変化により、地域の産業を支える中小企業等においては、これまで培ってきた高度な技術の伝承や承継者不足などの問題も顕在化する中、イノベーションや新たな挑戦への機運醸成が求められています。

こうした中、地域の核である中核市は、新しい社会像や価値観の創出による産業の転換を的確に捉え、「産業のミライのその先」をイメージし、これまでの取組をアップデートしながら、自治体としてのあり方を描きなおす必要があります。

本パネルディスカッションでは、自治体としてこれらの産業変革とどう向き合うべきか、次世代の産業をどのように創出していくべきか、更に、実証実験等の先進的な取組の先にどのような「ミライのその先」を描くべきか、各市の事例発表を基に議論を深めます。

第2会場

<テーマ>

多様なつながりと描く地域共生社会のミライ

パネリスト 中核市市長3名～4名

我が国の社会保障制度は、近年の人口構造の変化により、「従来の福祉を超える新しいステージ」を迎えたとされ、地域においては、家庭・学校・職場といった人々の生活領域における支えあいの基盤が弱まり、社会的に孤立する人や、制度の狭間の課題や複合課題が顕在化しています。

こういった社会構造の変化を背景に、「支える側・支えられる側」といった従来の関係を超えて、地域のあらゆる住民が役割を持ち、助け合いながら暮らしていく「地域共生社会」の実現に向けて、各市でも様々な取組が進められています。

一方、新しいテクノロジーやイノベーションの創出は急速に進み、年齢、性別、障がいの有無などに関係なくシームレスな生活を送ることができ、さらには「地域」という枠を超えたつながりを持つことが容易となるミライが現実のものとなりつつあります。また、昨今のコロナ禍は、従来の「人々のつながり」や「地域」の概念が変わりつつあることを実感するきっかけにもなりました。

本パネルディスカッションでは、中核市の先進的な取組を共有し、社会の変化に伴って生じる課題と、多様なつながりから生まれるこれからの可能性の両面から、「地域共生社会」のミライのその先をどのように描くべきか、議論を深めます。